

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2017~2018年度 No.225

10月 月報

那須クラブ会長 主題
地域につなげ那須ワイズ



強調月間：EMC-E
YES



2018~2019年度 主題
 国際会長：(IP) Moon Sang Bong (韓国)
 「私たちは変えられる」
 アジア地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事：(RD) 宮内 友弥(東京武蔵野多摩)
 「為せば、成る」
 北東部長：涌澤 博(仙台青葉城)
 「チャンス到来 われら北東部から世界へ」

クラブ役員 事務局
 会長：河野 順子
 副会長：村田 榮也
 書記：藤生 修也
 会計：藤生 強
 担当主事：村田・鈴木 強
 ブリテン：田村・村田

9月例会データ (出席率：66.7%)
 在籍者 6名
 例会出席者 2名 ネット 1名
 メイクアップ 2名

今月の聖句
 わたしの主よ、私の願いはすべて
 御前にあり、嘆きもあなたに
 は隠されていません。
 (旧) 詩編38:10

10月 Happy Birthday
 なし

巻 頭 言

担当主事 藤生 強

ワイズ東日本区の「第31回ユースボランティアリーダーズフォーラム」が、東京YMCA山中湖センターを会場に行われました。那須YMCAからもリーダーが参加しました。多くの仲間と過ごした2泊3日の体験は、とても有意義なものだったと思います。

ワイズ東日本区のHPには、青空の下、山中湖と富士山（頂上は雲に隠れていますが・・・）を背景にした集合写真がアップしております。笑顔のリーダーたちはとても楽しそうだなと感じながら報告文を読んでいくと、参加者数が「ユースリーダー32名、スタッフ・カウンセラー10名、ワイズ32名の計74名」とあります。「半数はワイズか!」「これは『シニアボランティアリーダーズフォーラム』だ!」と思わず感じてしまいました。と言いつつも、私自身も昔々参加したことがありましたので、「ワイズの方も良き体験・交流を得ただろうな」と羨ましく思いました。

私が参加したのは1995年「第8回フォーラム」でした。当時、東京山手YMCAに勤務しており、主管を山手Yが、そして私が主担当として携わりました。神田美土代町の東京YMCAにてワイズの方々と何度か打合せし、フォーラムを作り上げていったことを思い出します。

この年の1月17日に阪神淡路大震災が発生し、日本に激震が走りました。多くのボランティアが被災地で活動を行い「ボランティア元年」と言われ、ボランティアが世の中に広く認知された年でもありました。フォーラム講師に神戸YMCAで震災復興にあたったスタッフをお呼びし、メッセージを頂きました。主にYMCAキャンプについてお話しされましたが、震災についても触れて頂き、リーダーたちは良い意味で「ショック」を受けていました。

奇しくも、今年のフォーラム直前に北海道にて地震が発生し、大きな被害が出ました。直近でも2016年の熊本地震、今年6月の大阪地震など、大きな被害の発生する災害が起きています。

神様は「おごることなく、謙虚に生きなさい。」と私たちに仰っているのかもしれない。

9月（第22回北東部 大会・仙台ワイズメンズクラブ70周年記念祝会）例会

会長 河野 順子

日時；2018年9月22日（土）午後1時～6時



場所；TKPガーデンシティ21階

参加者；河野、村田のメン。
村田メネット。

去る2018年9月22日（土）13時からTKPガーデンシティ21階に於いて上記会が開催された。

はじめに涌澤北東部部長が歓迎と次年度に予定され

ている「アジア太平洋地域大会」への協力願いの挨拶をされた。来賓には、東日本区理事宮内友也氏とアジア太平洋地域会長の田中博之氏の挨拶があった。また、元アジア太平洋地域会長・ア大会・大会委員長のEdward Ong氏がシンガポールからお出で下さった。その他東日本区の役員の方々が参加された。

私は久々に部大会に参加したので、この賑わいに圧倒されていた。皆さんお元気です。各クラブ紹介は、それぞれ特徴的活動が報告された。アジア太平洋地域大会に照準を合わせた部大会であった。

基調講演は、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク「東北ヘルプ」事務局長川上直哉氏（仙台青葉城ワイズメンズクラブ書記・日本基督教団石巻栄光教会主任担任講師）による「福島と東北キリシタン」のテーマであった。福島原発の現況には、不条理な現場をみながらの想いが語られた。現場では、どのように放射能と折り合って生きるかという重い内容があった。東北のキリシタンの記録が少ないという中から苦労されて資料を集められたところから報告され、活発な質問もあり有益な講演であった。

仙台ワイズメンズクラブ70周年記念祝会は、オープニングに『仙台すずめ踊り祭連六軒丁睦』様によるすずめ踊りであったが、男女の太鼓に合わせ、すずめ踊りが披露された。若者の躍動感と小気味よいテンポで楽しいオープニングとなった。懇親では、ギターコンサート浦島浩司氏による高齢者・子供・障害者を対象に、優しく元気づける歌詞で親しみを感じた。石巻にも継続して元気づけに来られている

ようである。姫路グローバルクラブの英和夫会長も来られており、同行した村田夫妻の喜びが印象的であった。この場を与えてくださった涌澤部長・仙台ワイズクラブに感謝です。



今後の予定

・ 10月役員会（第2例会）

日時：9月29日（土）午後6時～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：10月例会（アジア学院収穫感謝の日バザー）、10月号ブリテンの発行、バザーの準備状況の確認、11月例会、YMCA報告等。

・ 10月例会（アジア学院収穫感謝の日 バザー・部長公式訪問）

日時：10月13日（土）・14日（日）午前9時～

場所：アジア学院

・ 11月役員会（第2例会）

日時：11月2日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：アジア学院の収穫感謝の反省、11月例会（茶道を学ぶ）、CS特別講演会、11月号ブリテンの発行、YMCA報告等。

・ 10月特別例会（秋の植樹）

日時：10月27日（土）午前9時15分集合

場所：那須街道松林駐車場

10月第2例会（役員会）報告

日時：9月29日（土）午後6時～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村副会長、村田副会長、藤生担当主事、平山主事、田村メネット

協議事項

1. 10月例会（アジア学院収穫感謝の日）バザーについて

①献品の集まり具状況について 衣類を中心に集まっている。リンゴの献品あり、その他としては、例年通りの季節の贈り物、シイタケコンブ、ゲームコーナー等。

②準備するもの テントとのぼり、ゲームコーナー（YMCA）、ブルーシート（村田）、釣銭（田村 1000円10枚、100円200枚、50円500枚、10円50枚）

13日（土）涌澤北東部部長の公式訪問、参加予定者 河野、田村2、原田2、藤生、村田2。14日（日）の参加者 河野、田村2、原田、藤生、村田2、ユースリーダー数名。

③12日（金）午後6時から田村宅にて準備会を行

う。主なことは、「季節の贈り物」の商品作成と準備、バザー商品の値付け、当日搬入物の積み込み。

④収益金は、アジア学院に献金する。

2. 北東部会（仙台ワイズ70周年記念例会）報告

3. 10月ブリテン発行について

4. 10月特別例会（秋の植樹）

オオタカ保護基金団体と合同で10月27日（土）に実施する。現地見と打ち合わせ、10月9日（火）午前10時から、田村、村田が参加。チラシの作成（田村）ユースリーダーの参加。

5. 11月例会の件

第1例会は、11月23日（金）午後2時より茶道を学ぶと題して、遠山先生宅で行う。

特別（CS公開講演会）例会は、11月24日（土）午後2時から、西那須野教会で開催する。

8. その他

①とちぎYMCA40周年記念感謝会 11月17日（土）午後2時から4時。

②シイタケ昆布の購入の件

10月と11月に購入する。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第66回）

田村修也

昨年ブリテン11月号に記載した通り、7月に着工したトンネルの試験掘りの方は、その後順調に進んでいました。経費は「勸業報告」によりますと、12月30日現在、1849円余を支払いましたが500円の未納がありました。（連載最後に印南文作さんの自筆になる履歴書を全文記載致しますが）印南さんの履歴書によりますと、明治18年1月中旬までに1万5千円を必要とし、1万円の不足を生じています。八方手を尽くしてもこの1万円の調達が出来ないため、工事関係者からは工事の中止や賃金の支払いを要求されて、印南さんと矢板さんは資産を売り払う以外に手段がない状況にまで追い込まれてしまいました。

このような困難の中、明治18年1月17日に、印南さんと矢板さんは第66回の上京を行いました。総日数87日にも及び、6回にわたる上京の中で最も長く、那須疏水開鑿が政府の認可を受けるに至った最も重要な上京でした。66回目の訪問先は、新資料によりますと、内務省職員羽田延光、大蔵少輔郷純三、金井之恭、内蔵頭杉孫七郎、奥清輔、農商務大書記官岩山敬義、元老院議員河田景与、後貴族院議員田中芳男、谷森大書記官、中村書記官、新田新八、後大蔵大臣渡辺國武、池田正三、内務省職

員青山 元、高橋 昌、青木周蔵実弟三浦泰輔、大阪庄三郎、内務省職員岩手厚雄、垣田 弥、書記官南一郎平、宮内庁主馬頭藤波言忠、農商務次官前田正名、内務省職員大橋 靖、栃木県大書記官川合憐三の氏名が記載されています。訪問先は第5回目のような政府要人は少なく、内務省と農商務省の高官の方々が多く、従前にも増して猛烈且必死の陳情を行ったことがうかがえます。

ここで、請願のために上京した足跡を振り返って見ますと、第1回は明治16年10月7日から11月28日まで53日間（政府高官・株主、大運河の必要性と疏水掛の測量）。第2回は明治17年6月22日から6月9日まで38日間（大蔵・農商務省、大運河開鑿資金の下渡し）。第3回は明治17年5月3日から7月6日まで15日間（政府高官・品川弥二郎、試鑿の許可と資金の調達）。第4回は明治17年10月10日から10月21日まで12日間（政府高官、灌漑用第水路の直轄工事請願）。5回は明治17年11月12日から12月28日まで47日間（政府高官・株主、灌漑用第水路の直轄工事請願）。6回は明治18年1月17日から4月13日まで87日間（内務・大蔵・農商務省、灌漑用第水路の直轄工事請願）ということになり、上京しての陳情請願日数は252日にもなります。この6回中最も長かったのが最後の第6回目です。印南さん矢板さんの決意のほどが身に迫ってきます。こうして最後に山田顕義参議兼司法卿の内諾を確かなものとし、参議11人の会議によって議決され、同日太政官庁でも認可され、4月1日付けで許可指令が出されました。「上申之趣聞届、該金額18年度ニ於テ下付ス認可シ。明治28年4月1日 太政大臣三条実美」。この朗報を得て、印南さんは「実に天へも昇る心地せり」、矢板さんは「快意極みなし」という心境を書き残しています。こうしてお二人は長年の大きな目的を果たして、4月13日、意気揚々として帰郷することができました。

山田顕義といえば、映画「五稜郭」の後編で、新政府軍の参謀として活躍し、戦争の空しさを知って、後に軍を退いて、日本大学の前身である日本法律学校を設立していく姿が描かれています。（次回に続く）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
理事長・園長 福本光夫

先週は、宮城教育大学名誉教授・児童発達支援セ

ンターシャロームのアドバイザーである長谷川茂先生のご紹介で、神奈川県大磯町よりある施設の方々が幼稚園と児童発達支援センターシャロームの視察に来園されました。担当責任者の方は8月に続いて2度目になります。この1年間の幼稚園と児童発達支援センター・シャロームに、茨城大・常磐短期大学・茨城女子短期大学の先生、栃木県議会生活保健福祉委員会、栃木県総合教育センター、行政（真岡市、栃木市、益子町、市貝町）、那須塩原市社会福祉協議会、幼稚園、児童発達支援事業所等の方々、100名を越える視察者がありました。課題はまだありますが、スタッフ一同が協力し合い、全ての子どもたちの幸せな今と未来のために、保育、療育の質を高めていきたいと思えます。これは、保護者の皆様もご理解・ご協力があって成立するものです。

今週は、保育園関係の全国研修会に行きまして。保育園の視点から子どもの保育や子育て支援について学びたかったからです。というのも、来年度本園が幼稚園型認定こども園になると、2号認定の子どもたちは、保育園と同じように標準保育時間は8時間になります。シンポジウムでのなかで、国の担当者が、子どもがどの保育園で過ごすかによって子どもの人生が変わると発言したことでした。これについて、私は保育格差ということで書物に書かれていることを、しらゆりや入園説明会でその一節を紹介したことがありました。しかし、一年間の周知期間を経て今年度から始まった新「保育指針」というナショナル・カリキュラムの実施を指導・監督する立場である国の担当者から、このような発言を生で聞いたことは実にショックでした。国が、今なお厳然たる保育の質の格差があり、その差は子どもの将来に亘って影響する事を認めたからです。子どもは保育園を選べません。市から割り振られた保育園によってその子どもの将来に影響すると考えますと、どの施設も保育の質を向上が求められ、目指すことが大切です。そして、3年前に始まった子ども・子育て支援制度は、地方分権で市が子ども・子育て計画策定と実施の責任主体です。2次計画策定まで後2年になりました。今度は5年間の時間もありました。コンサルタントに依存した金太郎飴的な保育ニーズの数値目標に留まらず、数値化出来ないニーズの掘り起こしと対応を期待しているところです。

繰り返しになりますが、正解の無い時代、その時その時の適解を歩む子どもたちにとって必要なのは、一般的な学力だけでなく、折れない心、自己統制力、価値観の違う人とやり抜く力に代表される非認知能

力になります。人材不足の中で、仕事はAIにとって代わられるもの、誰でも出来る仕事、専門性の高い仕事と分けられるようになってと言われ、ますます非認知能力の重要性が叫ばれています。何度も紹介しましたノーベル経済学賞受賞者・シカゴ大学教授ヘックマンの研究、世界一の幼稚園と称されるイタリアにあるレッジョエミア幼稚園卒園来の縦断的研究をしているミラノ大学の報告は、乳幼児期における保育の大切さが指摘されています。しかし、それと同時に家庭環境も含めた包括的環境の大切さも報告されています。教育・保育施設の保育の質、子育て支援、家庭の大切さが根拠に基づいて報告される現在、社会の子どもして、地域も含めみんなで協力することが求められています。

アジア学院だより

学校法人 アジア学院
校長 荒川 朋子

天に召された高見敏弘先生

アジア学院の創設を先導し、今日までアジア学院を導いてこられた高見敏弘先生が、9月6日天に召された。91歳の生涯だった。翌9月7日にご家族だけで葬儀が執り行われ、アジア学院では12月13日（木）にお別れの会を予定している。

高見先生の数えきれないほどの思い出の中で、私の中でいつでもはっきり思い出されるのは、先生がご自宅でよく木の床の上で昼寝をなさっていた姿だ。先生は木の床の上に何も敷かず、ただごろんと横になって寝ころび、ご自分の腕枕で昼寝をなさっていた。人の動線上に寝ていらっしやることもあり、そこを通らなければならない時は無礼を承知で「ごめんなさい。」と小声で言いながら、先生をまたいだこともある。先生の生き方を表す言葉があるとすれば、この昼寝の姿から浮かび上がる「素朴さ」と、「分かち合い」ではなからうかと思う。

高見先生のご生涯は大きく3つの時代に分かれると思う。第1の時代は先生が25歳までの時代（1926年～1951年）であろう。満州で生まれ、10歳で日本に帰国。貧しい家庭環境から、禅寺で修業をしながら学校に通わせてもらうという奨学金で、12歳で京都の禅寺に住み込み、そこから旧制中学校に通った。その後神奈川県海軍学校在学中に終戦を迎え、終戦後生き延びるために様々な仕事をしている時に、25歳で神戸でアメリカ人宣教師のコックとして雇われることになる。それがその後の高見先生の人生を大きく変える。

第2の時代は、高見先生がアメリカ人宣教師の影響を受けて洗礼を受けクリスチャンとなり、この宣教師の計らいでアメリカに留学する機会を与えられてから、アジア学院を創設するまでの21年間（1951年～1972年）であろう。高見先生はアメリカで3つの大学で勉強をする機会を与えられ、この間にキリスト教を本学的に学び牧師の認定を受ける。その後帰国し関西で牧師として活動する。やがて東京町田市の農村伝道神学校の先生との出会いがあり、61年にこの神学校に入学するために上京する。ところがそこでは英語力を買われ、その前年に開設していた東南アジア課の課長を任せられることになる。

農村伝道神学校で知り合った奥様と62年に結婚。神学校で12年の歳月を過ごしたが、やがて学校は財政難を迎える。時を同じくして、1972年に独立直後の新国バングラデッシュを歴史的な洪水が襲い、高見先生は農業復興奉仕団のリーダーとして50人の日本人の若者を率いてバングラデッシュに4か月間入ることになる。この活動は、今の日本の国際協力NGOの先駆けとも言われている。またこの時の体験が、後にアジア学院を創設するビジョンを高見先生に与えることになったと聞いている。

第3の時代はいよいよ1973年のアジア学院創設からの時代である。この西那須野の地で、当時の西那須野教会の福本治夫牧師をはじめ、多くの協力者との出会いがあり、資金調達、土地の取得が可能になり、1973年5月、日本を含む6カ国から16人の第1期生を迎えて研修がスタートした。高見先生は最初の10年の道のりは特に厳しかったと言っていたが、「農村指導者を養成する世界で唯一の学校」という誇りを胸に、1991年に校長退職、94年に理事長を退職するまで、まさにアジア学院の運営を先頭で引っ張ってこられた。

高見先生の幼少時、そして青年時代は決して恵まれたものではなかったと思う。戦争による荒波にも翻弄され、戦後も貧しい生活を送った。しかし少年期の禅寺での生活で高見先生は、物に執着しない清貧を尊ぶ心（硬い木の床で寝ころぶことがお好きだったように）、「自然のおおらかで厳しい秩序正しい美しい営みから自分自身の生の在り方を学ぶ」姿勢を身につけられ、それがアジア学院の生活の中にも尊い価値観として備わっていった。

そして過酷なバングラデッシュでの復興支援活動で、貧しい農村の被災民からなげなしの食べ物をつるまってもらった経験から、貧しい人が「乏しさを分かち合う」という、「人間の最も美しい尊厳」を

学んだ。そこから、人間にとってもっとも大切ないのちと食べものを分かち合い、共に生きることを願う学び舎を作るというビジョンが生まれ、それが今日まで45年間、57国に約1,400人の卒業生を送り出し、実に多くの国内外の人々にかげがえのない体験を与えることを可能にしてきた。

私は神様が高見先生をこの世に送り、このような学び舎が生まれたことを心から感謝している。アジア学院が大切にしている価値観と根底にある精神は、「近代化による人間疎」が加速化する世界ですますます重要なものになっていくと思っている。

特別寄稿

澤田高牧師をアッシジに訪ねた奈良信氏

澤田先生から電話を頂いたのは、昨年(2012)の12月30日のことでした。突然の電話でした。若し適うことであれば、何とかしてお目にかかり、那珂川流域におけるホーリネス伝道の開拓者であった御尊父澤田末吉牧師の、昭和7年以降のお働きについては是非お伺いしたいと願っていただけに、祈りが聞かれた思いでした。

1月の2日というお話でしたが、その後、正月明けにとの変更のご連絡を頂きました。しかし、私はその12月30日の23時30分を過ぎた頃、突然発作を起こして、救急車のお世話になり年末年始を病院で過ごすことになったので、お会い出来たのは退院後しばらく経ってからのことでした。約束の時間に奥さまの実家である那須温泉はなやホテルの前で待ち合わせて、先生の先導でご自宅に参り面談ができませんでした。第2回目の訪問は8月8日でした。昼食になり奥様のお料理のスパゲッティを頂きながら、アッシジに奈良信氏が訪問されたこと、教会等をご案内しながらラウダの話になり、鎌倉に造られた讃美堂の名称もラウダとすべきだった等々のお話を伺いました。

澤田先生は9月早々にアッシジへお帰りになるということをお聞きしましたので、お戻りになる前に、この奈良信氏のアッシジ訪問のことをブリテンでお知らせしたいと思い、帰国準備で大変お忙しいなかでしたが、執筆のお願いをした次第です。ファックスでお送り頂きたいとお願いしましたが、お手紙で原稿を頂きました。是非ご一読願いたいと思います。

(以下、澤田先生の寄稿文を掲載)

二度アッシジを来訪された奈良信先生

姉崎正治博士が明治42年、旅行記花摘み日記を世に出した。手元にあるのは大正元年五版発行とあり、

アッシジについて【名に恋しアッシジ都近ずきぬ、高根のすそに一むらの家】と詠まれている。イタリアのアッシジに恋焦がれて詣でる方もおられたのであろうと思われるが、奈良先生は【アッシジの小さき花】の初版派のようにかがえた。

奈良先生の初来訪の折、アッシジ駅の一つ手前の駅で下車されてしまった。たいていペルーージャ駅から途中の3駅を飛ばしてアッシジ駅を案内されるので、先生はそうされたのであろう。今でこそ大勢の移民が下車する駅であっても、暮色の迫るホームに一人ぼつねんと降り立てば、車中の人は窓越しに怪訝に思ったであろうが、異国人に声をかけるほどの親切心も羨える夕べだ。でも先生に、アッシジへ行かれるのですか。と声をかけだしたのは、フィレンツェから寄留先のわが家に帰る途中の、今では大阪でピッツリア・マンマミーアを開店している北木光男君。彼は先生を車中に呼び込んで、訪ねる先がアッシジの澤田と聞いて、それは私のオヤジです。と言って同行された由。

異国では、手作りの日本食は貧しくても座を和ませる。食後はそそくさと合唱団の練習場にも足を延ばしていただいてから、気兼ねもいらない郊外のシスターの家で異国の夢路をたどっていただいた。

この町には1216年8月2日以来、ローマカトリック世界では、死ぬ前に一度【悔い改めるだけで】救われるとした法王庁公認の会堂が駅近くにあるために、終日にぎわう。奈良先生はここを第一番に訪ねられて、プロテスタントの源泉はここにあるのではなど、楽しい会話をしながら、旧跡を探訪された。また行き交う友人に先生を紹介したり、建築家として司教座入り口の鴨居の謎を解いていただいたりもした。

後日在京の折に、先生は東京YMCA役員会に招待して下さった。そうそうたる面々にご紹介いただくなど、たいそう恐縮した。活動資金の建議があって、同席された若い役員の方がプラスチック溶液に小さい花を組み入れて、アッシジで販売してはとの良案を得たりもしたが、実は当の彼がフランチェスコと仲間の物語【アッシジの小さき花】を知らない時代のキリスト者であることに、奈良先生も、時代の違いを知らされて、啞然とされた。このことが、若いキリスト者に聖フランチェスコの功績を知ってもらうパンフレットを至急作ってはとの話に梶をきってこの会合もにぎわった。

数年過ぎて、奈良先生から夜分に突然電話が入って駅までお迎えに駆け付けたのが、先生二度目のアッシジ来訪だった。付き添いもおられ、先生は半身

不随でお疲れの御容子。先生は【讚美堂】が完成したのでと、その事を気にされておられるのか、話の折々に再三おっしゃっておられた。翌日は先ずサン・ダミアノ教会堂にお連れすることにして、先生お気に入りのシスターの家に案内する前に、隣接する知人の食堂で気ままな時間を過ごした。でも【讚美堂】でよかったのかなとおっしゃられるので、ここでも先ず Laud (主を讚美) と歌って、主を讚美せよ！讚美せよ！と主を讚美しますよ。と暗闇の路上で話をしたのが昨日のことであったように懐かしく思われる。

翌朝、駐車場から緩い坂道のサン・ダミアノ会堂へのアプローチを先生の手を取って歩を進めながら途中右手の自然石に Laud と彫られている記念碑を読み上げると先生も復唱された。ここから吟遊詩人だったフランチェスコの弟子パチェスコが、主にある死者は再び死ぬことはない！と、フランチェスコが死の床から加筆されて完結したラウダ♪被造物の讚歌♪を委ねられて、彼は得意とするユートをかきながしながら、主を讚美する福音を伝えるためにアッシジの丘を降りて行った。

そめ後、奈良信先生の音信は、この秋田村修也先生がお話くださるまで伝えられることはなかった。2018年9月10日 ナザレの主の僕 澤田 高

YMCAだより

【第31回ユースボランティア・リーダーズフォーラムに参加してきました！】

9月7日(金)～9月10日(日)に東京YMCA山中湖センターにて第31回ユースボランティア・リーダーズフォーラムが開催されました。ユースボランティアリーダーズフォーラムはリーダー歴が2年以内の経験の浅いリーダーを対象に野外活動の場を通して、「今、リーダーに求められること」を普遍のテーマとして行われているトレーニングキャンプです。東日本のユースリーダー32名が集まりました。基調講演や実際にメンバーになり野外活動に参加し、「今、リーダーに求められていること」についてグループごとに考え、最終日に発表するな



ど学びを深めていきました。

今年とはちぎYMCA主管ということで7名のリーダーと3名のスタッフが参加しました。また、那須YMCAからはその内2名が参加しました。たくさんのご協力ありがとうございました。

【とちぎYMCA・那須YMCAの10月の予定】

- ・10/6(土) さくらんぼ幼稚園運動会
- ・10/6(土)－8(月) 全国YMCAリーダー研修会@仙台YMCA ※とちぎYからは1名のリーダーが参加します。
- ・10/13(土) サタデークラブ@アジア学院(収穫感謝の日に参加)
- ・10/14(日) Yキッズ@鹿沼市自然体験交流センター
- ・10/20(土)－21(日) ふじさんぽ(チャリティラン支援プログラム)

リーダーズフォーラムの感想・学んだこと

国際医療福祉大学1年 薬学科 遠藤さやか(リーダー名 ちゃっぴ〜)

私は、今回のリーダーズフォーラムで普段関わることのない他県のリーダーと、お互いの県での活動について情報交換ができたことで、今までと違った視点で物事を考えることができるようになりました。グループのみんなと3日間共に過ごし、交流を深めていく中で、自分から積極的に相手と関わることが



できるようになりました。今回学んだことをこれからの活動にいかしていきたいです。

国際医療福祉大学1年 薬学科 小菅乃愛(リーダー名 によろ)

フォーラムでは、他県の先輩リーダーやベテランのディレクターから学んだことが多くありました。メンバーに求められているリーダー像など、それぞれの考え方を共有できたことは大きな経験になったと思います。そして何より、山中湖でのキャンプが最高でした！星や朝日を見たり、カヌーを漕いだりする中で新しい仲間も増えていって、最高の思い出になりました！

2018年度

那須ワイズ10月植樹例会のご案内

3. 11の東日本大震災から7年目を迎えます。風化させない、忘れないで、更なる復興を祈り続けましょう。防災のため地球温暖化防止対策や環境保護のために植林が進められています。

あなたの手で 緑を育てませんか

10月恒例の植樹例会を下記により実施いたしますので、お誘い合わせの上ご出席下さるようご案内いたします。小雨決行ですが、晴天になるように今からお祈り下さい。

1. 月日 2018年10月27日(土曜日) 現地集合(那須街道赤松林入口の駐車場に9時15分までにお集り下さい)
(植樹等実施予定地は2018年春4に実施した所より那須寄りです)
2. 行先 那須街道「赤松美林」 塩那森林管理署指定植林地
3. 内容 植樹等・歩道清掃と那須野が原開拓・那須疏水史跡巡り
4. 行程予定 ※今回はオオタカ保護基金の皆様と共に活動を行います。

タイムスケジュール	内 容
9:15	「那須街道赤松美林」駐車場集合
9:30	開会式
10:00	赤松苗木の植え付け等
12:00	昼食・赤松美林周辺散策と歩道清掃(自由参加)
13:00	那須野が原開拓と那須疏水史跡探訪(自由参加)
14:00	現地解散

5. 費用 必要なものは各自負担
6. 装備 個人装備:雨具、手袋(軍手)、タオルなど
7. お弁当、飲み物、おやつ等はお忘れなく
8. その他 必要と思うもの
9. 参加者は全員保険加入をいたします

10. 塩那森林管理署のスタッフの皆様には今回も大変お世話になります。苗木・唐鍬等用具は森林管理署で準備して下さいます。

※那須ワイズメンズクラブ副会長田村修也 担当田村修也 ※全員保険に加入いたしますので、ご参加の方は田村(090-5545-6763)宛、10月22日(月)までにご連絡お願いいたします。